

3. 2 Magnesium (マグネシウム)

ユルゲン・ベッカーは Magnesium metallicum (金属マグネシウム) のブルーピングを行っており、ハグがこのブルーピングをもとに一つのケースを紹介している (1994 年)。

前著『ホメオパシーとミネラル』の Magnesium の解説に、本書で新しく付け足すことはあまりない。

人間関係にかかわる全般的なテーマについては、すでに明白になっている。関係を失うことへの恐れや両親が離婚することへの恐れなどがそうである。攻撃性と平和主義は第 2 段階を暗示する要素であり、空間に関係があることがわかる。彼らは自分自身の居場所と、人間関係のなかにおける自分の位置を見いだしたいと思っている。このプロセスが攻撃性と縄張りの衝動を伴うのである。

[元素の性質]

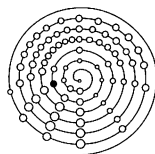
名称はマグネシアという小アジアの古代都市の名前に由来している。別の説として、ギリシャのテッサリアの一地方であったマグネシアと呼ばれる一帯の名前にちなんでつけたというものもある。磁石 (マグネット) という言葉もマグネシウムからきている。マグネシウムは 1775 年に発見され、地球上で 8 番目に多く存在している元素である。金属の形態は、大気にさらされると即座に酸化し、閃光を放射する。過去においてマグネシウムはフラッシュバルブのような役割として写真撮影に使われていた。現在でも焼夷弾や軽量ロケットの製造に使用されている。

重量がたいへん軽いため、マグネシウムは飛行機やロケットや競技用の自転車の製造などで広く使われている。タルカムパウダーは水分を吸収する特質があるので、体操選手が手につけるのに使用されており、化学式は、 $Mg(OH)_2 \cdot 3MgCO_3 \cdot 3H_2O$ である。

植物に含まれ、光合成を行うクロロフィル (葉緑素) にもマグネシウムが含まれている。

[概 念]

第 2 段階	ケイ素のシリーズ
観察する、気づく	人間関係、家族
コメント、批判	他者、あなた
評価	愛、憎しみ
確信がもてない、臆病	コミュニケーション
空間を定義する	言語、学習
適応する、譲歩する	自分を見せる
消極的、無力	遊び
防御的	ティーンエイジャー
除かれた	家、近所



[グループ分析]

- 家族のなかの私の居場所はどこか？
- グループについて確信がもてない
- 他人への批判：攻撃性
- 他人から批判されることへの恐れ
- 人間関係において確信がもてない
- 嫌われることへの恐れに屈服する
- 愛されるために適応する
- 受動的な態度が愛へとつながる：平和主義
- 人間関係において消極的
- 家族のなかで傷つきやすい
- 愛なのか憎しみなのかかわからない

281

[Magnesium の像]

本質：人間関係のなかでの私の居場所はどこか？

●家族のなかでの私の居場所はどこか？

これは Magnesium の肝心かなめの問題である。人間関係はたった今つくられたばかりで（ナトリウムの段階で）、今度はその人間関係のなかで適切なバランスを見つけるための非常に大切な時期なのである。それは昔から続く、「自分の縄張りを定義する」というテーマである。私はどうすれば自活し自分の利益を保持することができるのか、同時に人間関係を潤滑に機能させるにはどうすればよいのか。

●人間関係のなかで確信がもてない

彼らは関係全体についてはまだ確信がもてないでいる。それが永遠に続くとはどうも信じられない。関係がすぐに終わらないなどと、どうしていえようか。相手が自分に飽きて去っていくかもしれないし、死んでしまうことさえあるかもしれない。彼らは自分は家族をもつに値すると思っているが、非常に傷つきやすく、人間関係に依存してしまうのである。

●愛されるために適応する

彼らは、相手にあまりにも多くを要求するとその人が去ってしまうのではないかと恐れている。そのため、相手の望みに合わせて自分を変え始めるのである。自分を擁護したり腹を立てたりする勇気をもたない。その代わり、他人の愛を逃さないようにと、完全に受動的にふるまうのである。

●批判されることへの恐れ

彼らの、拒絶されることに対する恐れはまた、批判されることへの恐れとしても表われている。彼らは特に相手の怒りを恐れる。怒りは人間関係を破綻させると思っ

いるからである。ごくささいな攻撃的態度が破綻につながるとしており、怒りも攻撃も全くない場合だけ、人間関係は続けられると思っているのである。新しくできた人間関係が壊れてしまうのではないかという恐怖から、彼らは受動的になる。自分が本当にしてほしいことや感じていることを、相手に伝えようとはしない。

●受動性が愛へとつながる：平和主義

彼らは、あらゆる攻撃的な要素を回避することを、人生における一つの理想と思うようになるかもしれない。攻撃性をこの世の邪惡の根源とみており、何としてでもこれを避けなければならないと思っている。そのため彼らは、平和主義運動に参加するのである。

●他人を批判する：攻撃性

一方で、彼らはまた、自分の場所を得るため戦っておらず、その場所をいまだに定義できていないと感じている。自分のなわばりを確保することに固執する。たとえそのために攻撃的になろうとも。あるいは彼らは純然たる欲求不満のために攻撃的になることもある。自分の生の感情をあまりにも長い間抑えつけていたため、我慢の限界がきて、持ちこたえられなくなるのである。攻撃性と縄張りの行動についてはコンラート・ローレンツが見事な説明をしている。ローレンツはグループ内の攻撃性と、食べ物を手に入れたり生き延びるために発揮する攻撃性との違いを説明している。真の攻撃性というものは、同じ種のメンバーの間で、自分の縄張りを明確にしたい者たちの間に起こる攻撃性であり、それは通常、致命的な攻撃にはならないということである。

●愛か憎しみかわからない

人間関係のバランスの悪さから、彼らは愛と憎しみの間を行ったり来たりする。彼らは誰かと一緒にいなくてはいけないと思っても、適切なバランスをどうとればよいかわからない。人間関係における自分の立場について確信がもてないままであるため、絶えず戦い続けなくてはならないのである。

●関係から締め出される

人間関係が本当に壊れるときが来ることもある。すると彼らは自分が見捨てられ、愛されず、無視されたような気持ちになる。これは孤児や養子や望まれない子供たちの置かれる典型的な状況であろう。

[表現型]

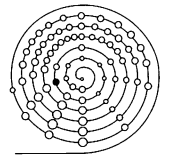
恐怖：攻撃性（3！）、批判、見捨てられる、病気、愛する人の死。

夢：落下する、亡くなった親類、結婚、パーティー、疲労、親類から見捨てられる、水子供。

気分：見放されたように感じる、感情を抑圧する

攻撃：あらわになる、あるいは抑圧する。

欲求：服の模様やイヤリングの形に星形のものを好む（ハグ、1994年）。



[全 般]

場所：右側。

天候：寒い、＜寒さ、＞暑さ（3）。

発汗：下着に染みがつく。

時間：＜午前 7 時（2）、周期的に症状が現れる。

欲求：肉、果物、新鮮なもの、生もの、揚げ物、甘いもの、野菜、カリフラワー（サン
カラン、1993 年）。

嫌悪：加熱した食べ物、肉、野菜。

食物：＜甘いもの、脂肪。

月経：＜夜；黒っぽい血；下着に染みがつく。

睡眠：目覚めてもすっきりしない。

肉体的：＞圧迫、＞体を二つ折りにする、＜接触。

[身体症状]

痙攣、ひきつり、疝痛、破傷風、脳幹の萎縮。

振せんせん妄、神経痛。

かぜとアレルギー。

甲状腺機能亢進症。

血管痙攣、レイノー病、心臓の問題、心筋梗塞、心臓の細動。

胃痛、胃酸過多、肝臓と胆嚢の問題（3）。

下痢。

前立腺の問題、中毒症、子癇。

筋肉に関する問題、歯と爪に関する問題。骨粗鬆症。

皮膚：壊疽、壊死、気腫；発熱（ドライスバッハ、p.245）。

[DD]

●ケイ素のシリーズ、第 2 段階、Causticum、Cicuta、Colocynth、Cuprum、Staphysagria。

●Natrium：Natrium は人間関係が行くべき方向に行かないときに諦めてしまう。

Magnesium のほうはもっと忍耐強い。関係が破綻しないように何でもする。自身の攻撃性を抑圧することさえある。関係が壊れることに耐えられないのである。